

CNS ニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

発行元:NPO 法人千葉自然学校

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話:043-227-7103 FAX:043-202-7237

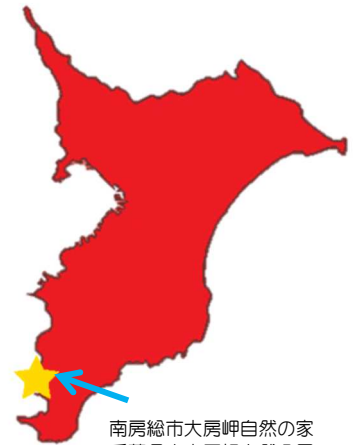
HP:<http://www.chiba-ns.net> メール:info@chiba-ns.net



「冒険」に出る準備



千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組みんでいます。



南房総市大房岬自然の家
千葉県立大房岬自然公園

中高生のためのアウトドア入門講座を開講しました。その名も「南房総アウトドアアカデミー」。全5回の開講です。多様な経験を通して地域の豊かな自然環境の価値を感じ、学ぶ体験型講座です。内容を紹介します。「アウトドアの基礎」ではデイキャンプを経験して服装や装備、その使い方を学びます。「海の探検の仕方」ではコーステアリングを経験して風や波、潮汐、海洋生物、安全管理を学びます。「刃物と火・ピバーク」ではクラフトと焚火、ソロピバークを経験して生命維持と精神の安定を学びます。「山の探検の仕方」では低山トレッキングを経験して歩き方、装備の使い方を学び、古道の雰囲気を感じます。「食料採取」では可食植物を採取して磯場の雑魚を釣り、調理します。

これらの経験を経て、いつか皆で困難が待ち受ける「冒険の旅」に出ることを目標としています。

私たちは19年前から大房岬を拠点として地域の子どもたちに自然体験活動の場を提供してきました。しかし、中学生になると部活動や塾などで放課後、休日が多忙になり、自然体験活動の場からも遠ざかるというのが常でした。時は流れ、状況は変化して部活動は地域移行の動きもありますし、学び方や進学の仕方についても多様な時代となりました。そして、自然環境もまた変わり続けています。いつかこの場で学びあった中高生が成長し、南房総の自然を守りながら活用するリーダーとして私達と共に活躍してくれる日を夢見ながらアカデミーを運営しています。



海岸園地からはオオトリ浜の景色を一望できます。ハヤブサの営巣、魚雷発射痕など自然と歴史の風景をお楽しみください。



文：神保 清司 (ジン)
南房総市大房岬自然の家 所長
JOLA2019※ 優秀賞



※JOLA 詳細はこちら

事業現場レポート

大房
岬

5/3～5 大房岬 GW イベント



毎年たくさんの人でにぎわうGWの大房岬。今年も色々なイベントを実施しました！ロープ1本で木に登る「ツリーイング」では樹上からの景色を楽しみ、NEW イベント「モルックたいぶさCUP」ではフィンランド発祥のスポーツ「モルック」でチーム対抗で競い合ったり、「どろケイたいぶさ大会」では大人も子どもも走り回り、ご家族やお友達と楽しく遊んでいる様子が見られました。

野外炊飯場ではスペアリブとピザをその場で焼いてご提供、出来立てのアツアツをいただきます！大房岬をめいっぱい楽しみました♪

遊んだ後は美味しい
ピザに舌鼓！



君津
亀山

6/2 森っこレンジャー①～森のふしぎ発見～



小学生を対象に一年にわたって様々な活動を行っている森っこレンジャー。今年度もスタートしました♪記念すべき1回目は、みんなできみかめの森を探検！すると、「なにかの足跡だ！」「動物のフン！」「でっかいミミズいた！」など森のふしぎをたくさん発見できました。最後には、森の中で見つけたもの、拾ったものを使ってビンゴゲームも実施。森での遊びを満喫した1日になりました♪



この～木なん歳？
みんなで年輪を
数えてみよう！



ろく
すけ

長屋門を解体しました。

長屋門の解体が終わって、「ろくすけ」の外観は一変しました。坂を登って入り口すぐに広々とした空間が広がり、その奥に母屋、浴室そして蔵が見えます。どっしりとしたかやぶき屋根、玄関前の池や樹木、鉢植えの花……。これまでの古い昔の家から抜け出して、懐かしさと同時にぬくもりを感じさせます。

「ろくすけ」は第2ステージに入ったと思います。これまでの古いものを残す・・・から、伝えてゆきたいよきものを残し、今を生きる人たちの感性と融合させて新たな景観を形成し、自然とともに生きる暮らしを実践し、次代に伝える場を「ろくすけ」に係わる皆さんと作って行きたいと思っています。

環境整備、生き物保全、樹園などの圃場整備に多くのボランティアの皆さんが活動してくださっています。そして、皆さんが来て下さることは停滞しがちな地域にとっても良い刺激になり、支えにもなっています。

遠藤 (サニー)



自然学校×ネットワーク会員校

48回目のサマーキャンプ



ヤックス自然学校

富田 拓郎 (のりべん)

昨年度、小松敬(ボクサー)より、バトンを受け取り、ヤックス自然学校総合ディレクターに就任しました富田拓郎です。キャンプネームは、のりべんです。約20年前に当校のキャンプリーダーとして、自然体験活動の分野で活動を始めました。まだまだ成長期真っ盛りの私ではありますが、子ども第一で、現場指導ではブラッシュアップを止める事なく、新しいことも取り入れるフットワークの軽さを大切にしたいと思います。

活動をバックアップいただいている千葉薬品(ヤックス)をはじめ、保護者の皆様、関係団体、OBOG、そして、キャンプリーダーと共に作り上げるためにも、コミュニケーションを大切に、開かれた窓を大きくできるように努めています。

さて、ヤックス自然学校ではおかげさまで48回目の夏を迎えます。この夏は幼児から中学生を対象に14コースのキャンプを企画し、募集早々に定員に達しました。世間での自然体験活動への期待感を肌で感じています。



野外でピザ作り。自然の中で子どもらしさを発揮し、楽しんでいます。

キャンプリーダーの研修中。子どもたちへの体験のため、日々奮闘中です！



自然体験活動(=キャンプ)の秘めた力は、その場での「楽しかった(fun)」「スッキリした(リフレッシュ効果)」という非日常体験の醍醐味を感じることができると同時に、それで終わることのない、後から現れてくる様々な教育的な効果があると統計や脳科学的にも言われています。キャンプでの体験が、子どもたちの日常生活をより豊かにしてくれれば、それが本望。そして、ひとりでも多くの子どもたちの人生にスパイスを与えているようならば尚、嬉しいことです。

取材:山崎大地(だいすけ)

自然学校×コーディネート事業

～出会う 知り合う クラスの仲間～

私立高校 1年生チームビルディング

約20年前から続いているこの事業は、都内私立高校1年生の、クラスの関係づくりのサポートをするというもの。系列の中学校から進学した生徒、高校受験を経て入学した生徒が混在するクラスの中で、壁を無くし、お互いの名前を呼び合うことが容易にでき、活発なコミュニケーションを生み出すということが私たちのミッションです。

本来は自然豊かなフィールドで実施予定でしたが、今回は生憎の雨。ですがこれも自然。そんな時もありますね。今回は数か所の体育館に分かれて活動しました。

4月半ば。入学したばかりの彼らは、お互いの名前と顔もまだうろ覚えで、クラスの雰囲気もどこかよそよそしく、緊張感のあるもの。それを各クラスについた3人のファシリテーターが、様々なアクティビティを繰り出すことで少しずつ打ち解けていき、活動も終盤になると、お互いにアイデアや意見を交換し、仲間を思いやる行動が生まれてきます。今回もすべてのクラスで笑顔が溢れていました。



文:花嶋 桃子 (ぼによ)

南房総市大房岬自然の家 副所長

JOLA2024 奨励賞

…皆さんの高校時代はどうでしたか?仲間とくだらないことで笑い、部活に青春を捧げ、時にはぶつかり、色濃い関係性が身近にあったのではないのでしょうか。ネットでもつながれるこの時代、人と人が直接顔を合わせてコミュニケーションをとるということは、非常に貴重で意味のあることです。今回出会った高校生の皆さんにとって、この活動が、今後の高校生活をより豊かなものにするための一助になっていたらと願います。

私たち千葉自然学校では、自然だけではなく人と人がつながるためのお手伝いもしています。学校、職場、スポーツチーム等、様々な分野でのチームビルディングを実施できますので、ぜひご相談ください。



不易流行

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

子どもは遊びが大好きです。時間と場所さえあれば自由に遊びます。友達がいればなお遊びは楽しいものになるのでしょうか。そして、子どもたちは、遊びの中でたくさんの大切なことを学んでいきます。それは、大人が与えるものではなく、子どもたちが自然に体得していくものだと思います。意図的、計画的に行われる教育とは大きく異なる点でありますね。

子どもたちは、遊びの中で、友達とのコミュニケーションを図り、社会性や共感性を身に着けます。さらに、自然や外の遊びでは、身体や脳の発達を促し、創造性や自発性を育みます。そして、遊びを通して、恐怖心や怒りや優しさや感動する心などの情緒を発達させていきます。このように、遊びは子どもの成長にとって必要不可欠なものと思われま

しかし現在では、時間的空間的にも子どもたちが自由に遊べるような環境が減少しつつあり、外遊びや群れ遊びなどの機会が減り、塾やスポーツクラブなどへ通う子どもたちが増えています。またスマホやタブレットなどの電子機器を使うことが増え、友達と直接コミュニケーションを図るような機会も減っています。



文：久保田 康雄

千葉自然学校 理事長

私たち大人は、子どもたちが自由に遊べる時間や空間や機会を整えるとともに、「子どもたちの遊び」についてもう一度考え直す必要があると思います。

千葉自然学校では、一年を通して、子どもたちの主体性を大切にし、成長を見守るような自然体験活動を提供しています。今後、私たち大人が、このような取り組みを含め、子どもたちが思い切り遊べるような環境を整えていきたいと思っています。



自由な遊びの機会や場を提供している事例として「プレイパーク」(冒険遊び場)があります。

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの維持管理に向けて～

築200年になろうとしている古民家「ろくすけ」。今年の春には皆さまからの寄付を活用して母屋屋根一部の茅替えと、損傷が激しかった長屋門の解体を行いました。今年も子ども達のホームステイや、ご家族でのご利用等、ろくすけににぎやかな声が溢れることでしょう。ぜひ新しいろくすけを楽しんでもらえたら幸いです。引き続き皆さまからのご支援をお待ちしています。(一口 3,000 円)

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)
振替口座 00170-5-259431
加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先(銀行)
千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275
特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。



NPO 法人千葉自然学校

【指定管理施設】

- 千葉県立君津亀山青少年自然の家
- 南房総市大房岬自然の家
- 千葉県立大房岬自然公園

【管理施設】

- 古民家ろくすけ



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。